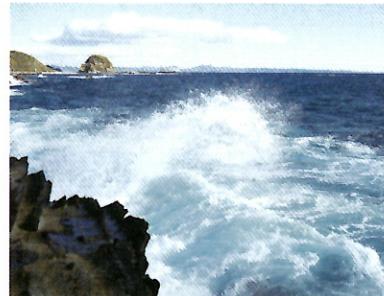


# James Molloy - MIRA Newsletter #22

## J I Mのみしまものがたり㉒

### 七十二候

カナダの東海岸ニューファンドランドで育った私にとって、迫力ある北大西洋が次の瞬間にどのように変わるのが、常に驚きとインスピレーションを与えてくれる存在でした。沿岸地方に住んでいたので、きらきら輝くロイヤルブルーから荒ぶる灰色へと、刻々と海の様子が変わっていくのを眺めていたものです。海だけでなく、変わりやすいのは天気も同じでした。6月に雪が降っても、12月にTシャツ1枚でいい日があつても、特に驚くことではないです。ですから、日本では当たり前な衣替えの習慣も、ニューファンドランドにはありません。



今でもはっきりと覚えているのは、来日して初めて迎えた梅雨の季節。友達が「今日から3日間雨が降ったら梅雨明けして、蒸し暑い夏に突入する」と教えてくれたことです。その時は信じられませんでしたが、彼の予言は的中し、私は日本の四季について理解したのです。日本は四つの季節がはっきりと分かれています、区切りの予測ができるということが、大西洋を見て育った自分には全くない概念でした。もちろんニューファンドランドにも春夏秋冬の四季がありますが、その境目は子どものころに見た、懐かしいあの海の光景のように霧がかかった曖昧なものです。



日本に長く住んでいると、ますますわずかな季節の変化に通じるようになります。日本に古くから伝わる、自然界を細かく七十二の季節に分けた暦を知ったときは、目から鱗が落ちたような思いでした。七十二候を紐解くと、東風が冬の氷を解かすとき（2月4-8日：東風解凍）、桃の花が咲き始めるとき（3月11-15日：桃始笑）、カマキリが孵化するとき（6月6-10日：蠶蟬生）などなど。この記事を書いているまさに今は11月12-16日のはざま。七十二候によると、地面が凍り始め（地始凍）、間もなく水仙の花が咲く（金盞香）頃だそうです。



5日ごとに自然現象が変わっていく暦を知ることで、この美しき予測可能な世界に次に何が起こるのか、希望と期待でぞくぞくし、新たな視点から三島での生活を楽しめます。

そしてもちろん、現代においてはスマホのアプリで、簡単に七十二候を追っていくことができるんです。「72seasons」で検索し、ダウンロードしてみてはいかがでしょうか？

NO.  
3

#### 三島駅 Mishima Station

JR三島駅を南口から見ると、屋根の緩やかな曲線が特徴的です。中央部の屋根は富士山、両袖部は三嶋大社の門構えをイメージしているといわれています。伊豆半島の温泉地を結ぶ伊豆箱根鉄道駿豆線の始発駅でもあります。駅前のバスターミナルから箱根や富士山に向かうバスもたくさんあります。

The main feature of JR Mishima Station is the gentle curves of the roof of the south entrance. The center is designed to look like Mt. Fuji and the two sides the gates of Mishima Taisha Shrine. The Izu Hakone Railway Sunzu-Line, which links the hot spring areas in the Izu Peninsula, also starts from here. In front of the station, there are many buses going to Hakone and Mt. Fuji.



近い将来、世界各地から、たくさんの外国人が三島へ観光に訪れることが予想されています。あなたも「やさしい英語」で、外国人に三島を紹介してみませんか。

出典：平成29年度 三島市英語ボランティアガイド育成研修  
外国人に三島市を紹介するスクリプト集